

「枚方市民の骨粗しょう症および脆弱性骨折発生の関連要因の特定と公衆衛生上の予防介入のあり方の検討（行政データを活用した枚方骨健康コホートの作成）」

研究実施のお知らせ

本学では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、枚方市が保有する市民の健康関連情報を使って行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省・経済産業省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。なお、この臨床研究は関西医科大学医学倫理審査委員会の審査を受け、研究方法の科学性、倫理性や患者さんの人権が守られていることが確認され、研究機関の長の許可を受けています。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

《背景》

2022（令和4）年国民生活基礎調査によると「要介護」となった者の原因として、「認知症」が23.6%で最も多く、次いで「脳血管疾患（脳卒中）」が19.0%、「骨折・転倒」が13.0%となっています。脳血管疾患に関しては、予防のための研究が国内外で多くの発表がなされており、行政対策としても、老人保健法による基本健康診査や2008年導入された特定健康診査においても、脳血管疾患の危険因子である血圧測定、脂質検査、HDL コレステロール、LDL コレステロール、血糖検査が検査主項目として含まれており、脳血管疾患の予防対策が一定十分に行われていると言えます。ところが一方、健康増進法に基づく骨粗しょう症検診は2003（平成15年）に開始されましたが、市町村自治体によっては骨粗しょう症検診を実施していないところもあり、検診実施市町村の受診率は5%程度と低い状況です。予防対策として十分に機能していないのが現状です。骨粗しょう症が原因で起こる大腿骨骨折の罹患率（/10万人年）は、50歳以上の男性では、0.79（1985～1999年）、1.18（2000～2009年）、1.31（2010年以降）と経年的に増加し、女性でも2.23（1985～1999年）、3.99（2000～2009年）、4.39（2010年以降）と増加しています¹⁾。骨粗しょう症は、骨折や認知症要介護のリスクを高め、さらには、要介護認知症や死亡にも大きな影響を与えます。さらに、骨粗しょう症の罹患率は加齢とともに増加していることから、超高齢化となっているわが国においては、骨粗しょう症の予防対策は早急に実施しなければなりません。また、自治体で実施されている骨粗しょう症検診をより有効に活用することが骨粗しょう症予防のための最重要課題であるため、骨粗しょう症検診の受診率を向上させる必要があります。

《研究課題名》

枚方市民の骨粗しょう症および脆弱性骨折発生の関連要因の特定と公衆衛生上の予防介入のあり方の検討（行政データを活用した枚方骨健康コホートの作成）

《研究の実施体制（利用する者の範囲）》

関西医科大学医学部

【研究責任者】

衛生・公衆衛生学講座 准教授 藤田 裕規

【研究分担者】

衛生・公衆衛生学講座 客員教授 伊木 雅之
衛生・公衆衛生学講座 教授 甲田 勝康
衛生・公衆衛生学講座 講師 村上 由希
衛生・公衆衛生学講座 助教 新田 明美

【既存情報の提供のみを行う機関】

枚方市役所 担当者
健康づくり課長 石田有紀子
健康づくり課係長 佐々木美和

《研究の目的》

- 1) 枚方市民の骨粗鬆症と脆弱性骨折（骨粗鬆症性骨折）の発症状況やリスク要因（生活習慣や慢性疾患保有状況等）との関連性を明確にし、公衆衛生上の予防対策を検討する。
- 2) 結果指標として死亡や要介護を設定し、枚方市民の骨粗鬆症、骨折やその他の慢性疾患の発症と予後との関連リスク等を含めた、健康寿命延伸のための評価モデルについて検討する。
- 3) 枚方市が実施する骨粗しょう症検診の受診率に影響する要因を探求し、効果的な受診勧奨のあり方を提案する。骨粗しょう症検診の実施による枚方市民の健康寿命延伸への影響評価を行う。

《研究期間》

研究機関の長の許可日～2042年3月31日

《研究の方法》

●対象となる方

2026年4月1日から2037年3月31日までの間に枚方市の骨粗しょう症検診を受診した枚方市民

●研究に用いる情報の項目

枚方市が保有する枚方市民の健康関連情報（骨粗しょう症検診受診者の問診・検査結果に含まれる情報、骨粗しょう症検診受診者で枚方市国民健康保険特定健康診査健診及び特定保健指導の受診者の質問票・検査結果に含まれる情報、骨粗しょう症検診に含まれる情報、骨粗しょう症検診受診者で介護保険要介護・要支援認定を受けた人の介護保険情報要介護・要支援度の状況、骨粗しょう症検診受診者住民が死亡している場合の死亡生死に関する情報、診療報酬明細書（レセプト）等）のうち、氏名、住所等の個人が特定される情報を削除した情報を枚方市から提供を受け、本研究に利用する。

《情報の利用又は提供を開始する予定日》2026年5月1日

《この研究に関する情報の提供について》

この研究に関して、研究計画書や研究に関する資料をお知りになりたい場合は、他の対象者の個人情報や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

《この研究での検診情報等の取扱い》

枚方市で個人を特定する情報は削除され、個人を特定できないようにしたデータを関西医科大学

学が提供を受けます。提供されたデータは、統計的処理を行います。国が定めた倫理指針（「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」）に則って、個人情報厳重に保護しています。

《本研究の資金源・利益相反について》

この研究は、営利企業からの資金の提供は受けておらず、研究者が企業等から独立して計画して実施しているものです。したがって、研究結果および解析等に影響を及ぼすことは無く、対象者さんの不利益につながることはありません。

《お問い合わせ等について》

この研究へのご協力は、研究の対象となる方ご自身の自由意思に基づくものです。この研究への情報提供を希望されないことをお申し出いただいた場合、その方の情報は利用しないようにいたします。ただし、お申し出いただいた時に、すでに研究結果が論文などで公表されていた場合には、完全に廃棄できないことがあります。情報の利用を希望されない場合、あるいは不明な点やご心配なことがございましたら、ご遠慮なく下記連絡先まで、ご連絡ください。また、この研究への情報提供を希望されない場合でも、不利益を被ることはありません。

《連絡先》

研究機関 関西医科大学医学部

研究責任者：衛生・公衆衛生学講座 藤田裕規

〒573-1010 大阪府枚方市新町 2-5-1

電話：072-804-2404（直通）

メールアドレス：fujita.yuu@kmu.ac.jp